品川区立台場小学校・幼稚園　　令和８年９月２５日（金）

台場の灯（ともしび）（校園長通信）No. １７

校・園長　滝渕　正史

５・５交流の様子から





連休前の出来事になってしまいましたが、９月に入り、10日（木）と17日（木）に、５年生とかもめ組さん・くじら組さんが一緒に取り組む、５・５交流がありました。

10月10日（土）は、台場小学校の運動会があります。今年もその中で5・5交流の一環で参加する競技を予定しています。そこに向けた、入口の遊び（活動）という位置付けです。

５歳児にとっては、５年生と久しぶりに一緒に遊ぶことを楽しむ、５年生にとっては、自分よりも小さい子への関わりの中で、相手意識をもち、一緒に楽しもうという経験を積むことと、10月10日の体育発表会での合同競技につなげていくことなどがねらいです。

活動は、「ロボット機関車」や「手つなぎリレー」、「縄の引き合い」など、年齢の違いのある子ども同士でも、関わり合いながら一緒に楽しめる教材や内容にしました。例えば、ロボット機関車では、（写真左）５年生がかがんで、幼児が肩につかまれるようにして、つながっていました。誰に言われたわけでもないのにこのようなつながりができること、つながって一緒に踊りながら、その時間を一緒に楽しむこと、この経験は子どもたちにとって、とても貴重なものであると思います。

右の写真は、17日の５・５交流の様子です。まさに、体育発表会に向けて、縄引きをやって楽しんでいる様子です。この縄引きが、当日の競技種目になる予定です。大人の視点では、現実的な問題として、当日までに、そう何回も時間を確保することも難しいために、本番に向けた「練習」という位置づけになるのですが、子どもたち（幼児・小学生の別なく）にとってみると、その時の活動そのものが「楽しい」です。もしかすると、写真からも、その楽しさの一端が伝わってくるかもしれませんが、この２回とも、本当に子どもたちは、その時、その場を楽しんでいたと感じました。

学校では、体育発表会当日にも、楽しみながらその活動に取り組んでいる様子を、保護者の皆様にもご覧いただきたいと考えています。すると、どうしても、本番をゴールにして、「練習」を重ねることになります。でも、子どもたちは、その時その時を楽しみ、その積み重ねが「本番」になっていくのです。とすると、大人（私たち教師）に必要な視点は、その「各練習」に、どのような目的意識を子どもたちにもたせたらよいかということになります。「自分で分かって主体的に取り組めるようにすること」も大切、でも「その時々を（本番にもつなげるように）楽しむ」ことも大切、子どもたちが、発達段階に応じながら目的をもてることが重要だと考えます。